

平成29年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 市民の文化芸術活動を支援します。	市民自ら行う文化芸術活動の「きっかけづくり」や「継続的な活動」をお手伝いする	市民のための講座			【入門編】 ・4/13～6/8 やさしく、たのしいデジタル一眼カメラ(計5回) ・9/29～12/22 はじめてのデッサン(計7回) ・11/13～12/18 はじめての透明水彩(計5回) ・1/18～3/15 はじめての油絵(計5回)	【成果】 ・市民の文化芸術活動を支援するという目標に対し、各種事業形態による、野外活動や座学を取り入れたアプローチにより、年間を通じ4.85という高い満足度を果たした。  ・「市民のためのプログラム」は開催目標数より1事業多い11事業を開催した。参加者数も、目標の109%に達し大いに賑わった。平均満足度も、4.85という高評価になった。油絵、透明水彩、デッサンという一般に馴染み深い分野に加え、デジタル一眼カメラ、陶芸(織部焼、志野焼)など当館の特色に沿った講座を開催することで、市民の日常生活に楽しみや彩を添える機会提供を実現した。  ・「あざみ野カレッジ」はかねてより当館に寄せられていたニーズに応える形で、アーティストや芸術分野に関わる方を対象とした連続講座を新規開設し、好評を得た。また、ヨコハマトリエンナーレ2017出展作家によるアーティストトークや地元地域でビール醸成に取り組む老舗酒屋への課外授業を展開するなど、幅広い題材を取り込んだラインナップで構成し、市民の生涯学習の場を提供し好評を得た。  ・「あざみ野サロン(鑑賞型事業)」は男女共同参画センター横浜北との共同開催という形式で、気軽に様々なジャンルの鑑賞事業を実施した。特に出演者全員を女性芸人で構成した「演芸会」や地元出身の演奏家を登用したクラシックコンサートなどは、アートフォーラムあざみ野ならではの事業として注目を集めた。  ・「地域アウトリーチ及び派遣型アウトリーチ」は山内小学校5年生全員に対する写真ワークショップも恒例となり、当館で開催する夏の成果展に向け、子ども達が意欲的に取り組む体制が確立した。  ・「市民協働/地域連携型アウトリーチ」は、今年度も横浜市岩間市民プラザでの「フェローアートギャラリー」巡回展を実施した。受け入れ施設からは、継続開催の希望があり、当館を起点とした障害者アート紹介のネットワーク構築の足がかりが出来た。	【評価できる点】 ・「市民のためのプログラム」は年間の開催回数、延べ参加者数、平均満足度の全てが目標を上回り、特に平均満足度が4.85点(5点満点)となったことを高く評価する。市民の創造活動の場、文化芸術活動への興味及び関心に応える場という役割を果たしている。  ・「あざみ野カレッジ」の年間参加者数が目標の2倍以上の456名になったことを高く評価する。文化芸術に関する講座と共に、分野を限定しない多彩な内容を取り扱う講座も展開した効果が出た。また、作品の作り手側であるアーティスト向けの講座を新たな切り口として実施したことも、良い影響を及ぼした。  ・派遣型アウトリーチでは、小学校での写真ワークショップを継続して行い、「カメラ及び写真」という館の特性を活かして、子どもたちに写真の魅力を伝える活動を実施した。  ・地域アウトリーチでは、他施設での「フェローアートギャラリー」を引き続き開催し、他施設との協力関係を継続して実施したことを評価する。
		□年間開催回数	10コース以上	11コース	B		
		□年間延べ参加者数	800名以上	874名	B		
		□平均満足度	4.6以上	平均満足度4.85	B		
		□入門編	2コース 計12回	4コース 22回	A		
		□中級編「ヌードクロッキー」(4コース各4回)	4コース 計16回	5コース 20回	A		
		□中級編	2コース 計8回	1コース 5回	C		
	□アーティストに学ぶ	2回	3回	A			
	2 様々なジャンルの達人やプロフェッショナルによる講座やワークショップで、大人の知的好奇心を刺激する	あざみ野カレッジ				【アート関連】8回(含:新設5回) ・5/27 舞台衣装デザイナーの仕事 ・8/27 制作発表 ヨコトリ2017参加アーティスト川久保ジョイの場合 ・10/9 現代美術探求ラボ③ ・2/11 現代美術探求ラボ④(中止) ※数に含まない 「アーティストのための実践講座」(新規開設) ・5/20 アーティストのサバイバル術 ・7/15 120分で学ぶアーティストのための著作権・肖像権入門 ・8/25 作品設置の基礎知識 ・10/14 作品売買とアート・マーケットについて知っておくべきこと ・3/17 初対面でチャンスをつかむ英会話術	【課題】 ・昨年度からの持ち越しの課題ではあるが、地域や教育機関への「アウトリーチ」展開が希薄な感が否めない。地元企業・団体の活動内容調査や文化芸術に接点が薄そうな活動と教育機関を繋ぐなど、新たな連携の形を模索していく。  ・鑑賞型事業(「あざみ野サロン」)における、集客に苦戦した事業があった。当館のように、定期的に有料のパフォーミングアーツ事業を開催していない施設では、プロモーションや販路の綿密な計画を要する。  ・800名を超える「あざみ野カレッジ」参加登録者への継続的な生涯学習機会提供手法の検討が必須である。
		□年間参加者数	150名以上	456名	A		
		□平均満足度	4.5以上	平均4.65	B		
		□アート関連	年3回	年8回	A		
	3 複合施設の特徴を活かした、企画展開連事業、フェスティバル事業との連携事業、センター横浜北との共催企画で、アートフォーラムあざみ野の賑わいを創出や顧客開拓する	あざみ野サロン 企画展開連、他舞台系事業				開催ジャンル 音楽:1、映像:1、大衆芸能:2、映画&トーク:1 ※企画展開連事業:「あざみ野ナイト」として「あざみ野子どもぎやらい2017」開催時に、映像と音楽によるライブショーを開催。  ・9/9 篠田太郎上映会「パラダイムシフト」(映像) ・10/22 映画「百合祭」上映&トーク(映画&トーク) ※センター横浜北企画 ・11/25 女性芸人そり踏み演芸会(大衆芸能) ・1/13 新春 あざみ野寄席(大衆芸能) ・3/3 春にして君を想う(音楽)	【改善が必要と考えられる点】 ・今後は文化芸術分野の事業についてのこれまでの実績と経験の蓄積を活かした、市民や地域、学校へのアウトリーチの積極的な実施の継続に期待する。
		□年間開催回数	年4回	年5回	A		
□年間入場者数		420人	580人	A			
地域アウトリーチ及び派遣型アウトリーチ		年1回	年1回	B			
市民協働/地域連携型アウトリーチ		年1回	年1回	B			

平成29年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価			
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
2 子どもたちをはじめとする次世代育成をします。	5 アートを通して子どもの感性を磨き、主体性を伸ばすとともに、創造の喜び、コミュニケーション力、思いやりの心を育む	企画展「こどもぎやらりい2017」				・「あざみ野こどもぎやらりい2017」開催期間:7/28~8/6 ・[展示室1] ・「まわして動かすアニメーション・マシン」 【出品作家】あしたのんき、奥下和彦、小野ハナ、OHRYSBIRD、竹内泰人、パンタグラフ、ヨシタケシンスケ ・[展示室2] (1)「手づくり写真集に挑戦！」 監修:吉野英里香 (2)山内小学校5年生「自分の思いと写真」 監修:三ツ山一志 ・関連イベント ・8/6 世界を旅する夫婦アーティストusaginingen 映像と音楽によるライブショー 出演 usaginingen ・ワークショップ 3回 (1)7/29 ワークショップ「やってみよう!ゾートロップ」 講師:OHRYS BIRD (2)8/5 光と影で手づくりのウサギが踊ります!! 講師:usaginingen (3)8/6 映像と音楽によるライブショーでの作品発表	【成果】 ・「あざみ野こどもぎやらりい2017」は「クルクルまわして動かすアニメーション」という明確なテーマを設け、子どもにもわかりやすい展示ができた。アニメーションのしぐみを体験できる作品のみならず、出品アーティストによるワークショップや、気軽に参加できる工作コーナーなど、子どもたちの好奇心や制作意欲への刺激となる体験を提供することに成功した。更に、当館で収蔵している横浜市所蔵カメラ・写真コレクションの中から19世紀のアニメーション装置を展示し、今と昔を比較できるよう所蔵品活用にも工夫を凝らした。最終日夕刻に開催した、映像と音楽による公演には、ロビーを埋め尽くす約160名もの観客動員があり好評を得た。  ・山内小学校への写真ワークショップのアウトリーチ及び当館での成果展については、受け入れ学校側では小学5年生の恒例行事としての位置づけがされるまでになり、地域連携として定着した。  ・「親子のフリーゾーン」は、今年度も約9,000人の来場者を迎え、子どもたちをアートの入り口へと誘う定番事業として、当館の特色のひとつとなった。  ・各種「子どものためのプログラム」においては、絵画、紙、ダンボール、スチレンボードなど日用品を用いたワークショップ等に加え、焼き物、木工、ガラス加工等の当館ならではの内容も実施した。いずれの事業も応募者多数により抽選を行うこととなり、高い人気を博した。  【課題】 ・今回の「あざみ野こどもぎやらりい2017」においては、出品作品のほとんどが当展覧会のための新作展示となったので、来場者に事前イメージを持ってもらうための、広報用メインビジュアルを会期が始まるまで活用できなかったことが悔やまれた。  ・前年度の課題として持ち越した、保育園・幼稚園・小学校等の近隣教育機関とのネットワーク構築によるアウトリーチの取組みに着手する事が適わなかった。次年度は、少なくとも1件は、新規での連携を推進したい。	【評価できる点】 ・「あざみ野こどもぎやらりい2017」は目標来館者数を800人以上上回ったことを評価する。本展示は「まわして動かすアニメーション」というテーマに基づく、多様な作家による作品を展示したほか、収蔵品からも関連作品を展示した。また、アニメーション装置をつくるワークショップを開催し、体感的にもアニメーションを経験できる場を実施した。子どもにとって文化芸術を鑑賞し、体験的に学べる場を提供し、次世代育成に貢献したことを評価する。  ・アトリエでの子供向け事業の参加者数は目標を1,000人以上上回り、平均満足度も高い水準になったことを評価する。参加者数の多さから、横浜市民ギャラリーあざみ野が子どものアート体験の場として地域に浸透していることが伺える。また、平均満足度の高さは、子育て世代の多い周辺地域のニーズに合った事業提供が行われている成果といえる。  ・親子で造形ピクニックや特別支援学級等の受け入れを継続して着実に行った。障がいをもつ子どもたちの文化芸術活動の体験の場としての役割を果たした。  ・「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」に積極的に協力したことを評価する。実施内容も絵画に関する分野に限らず、ダンスやアニメーション、鉄材を使用した造形と多方面にわたり、子どもたちに多様な芸術に触れる機会を提供した。  ・「教師のためのプログラム」を着実に開催し、参加者数は目標の2倍となった。アニメーション動画の作成に関する内容を扱い、教師が学校の授業でも活用できる具体的なプログラムを実施したことを評価する。	【改善が必要と考えられる点】 ・前年度の課題として挙げていた保育園・幼稚園・小学校等の近隣教育機関とのさらなる連携について、引き続き検討を進め、実現に向けた取組を期待する。
		□来館者数	来場者3,000人以上	総入場者数3,802人	A				
		□関連事業 身体表現ワークショップ	1回	1事業3回	A				
		アトリエを会場にアートと触れ合う事業を実施							
		□年間延べ参加者数	9,000名以上	年間計10,137名	A	【アトリエ事業年間参加者数内訳】 ・「親子のフリーゾーン」年間36回、参加者数:8,998人 ・「親子で造形ピクニック」年間12回、参加者数:199人 ・「学校利用」年間9校、参加者数:193人 ・「子どものためのプログラム」年間15講座、21回、参加者数:747人			
		□平均満足度	4.6以上	平均4.84	B	・1日講座 年12講座 ・複数回(日)講座 年3講座、9回			
		□親子向け:親子のフリーゾーン(FZ)	月3回	年36回 (平均して月3回)	B	[1日講座](年12講座) ・4/21 クルクル工作! ・5/5 紙でつくろう!こいのぼりバッグ! ・5/21 見て、さわって、描く! ・6/11 えのぐであそぼう! ・7/9 ぶかぶかオブジェ ・9/18 焼き物しよう! ・10/22 アトリエの洋服屋さん ・11/23 小麦粉ねんどであそぼう! ・12/10 木工しよう! ・1/14 ホチキスに挑戦! ・2/12 ぼこぼこ版画 ・3/24 溶かしてつくろう! ガラス実験室			
		□親子向け/障がい者支援:親子で造形ピクニック	月1回	年12回 (平均して月1回)	B				
		□学校利用:造形活動による、学校支援	年10回程度	年9回	B				
		□幼児・児童向け講座(1日講座) 実施回数	年11回	年12回	B	[複数回(日)講座](年3講座) ・6/10、6/24、7/8 手づくり写真集に挑戦!(全3回) ・8/19、9/2、9/16、9/30 油絵を描こう(全4回) ・12/2、12/3 みんなでつくる あったかクリスマス(2日間)			
		□幼児・児童向け講座(複数回講座) 実施回数	年2回	3講座 計9回	A				
		芸術文化面からの学校支援							
		児童対象:教育プラットフォーム 実施校数							
		□年間実施校数	3校以上	4校	A	・「学校アウトリーチ」 横浜市芸術文化教育プラットフォームへの協力 9/14、9/21、9/28 奈良の丘小学校1年生(絵の具) 10/16、10/17 高田東小学校4年生(アニメーション) 11/30、12/1、12/8 新田小学校3年生(ダンス) 2/15、2/21、2/22 すみれが丘小学校5年生(鉄)			
		□年間参加者数	参加者250名	771名	A				
□児童対象:カメラ・写真に関連するアウトリーチ ※1-4 地域、派遣型アウトリーチ再掲	1校	1校	B	・6/16、6/23、6/30、7/7 山内小学校5年生「自分の思いと写真」※再掲					
教師対象 先生のためのワークショップ									
□年間実施回数	1回	1回	B	・「教師のためのプログラム」 7/31 横浜市立中学校美術研究会 夏期研修「アニメーションの活動」					
□年間参加者数	10名	20名	A						

平成29年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
6	市民とアーティストの交流の場を設ける	企画展でのアーティストとの交流 アーティストトーク、ワークショップ	コンテンポラリー展、写真 展会期中で年4回	年6回	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あざみ野コンテンポラリー」vol.8 10/7 レセプション 10/7 葉名樺 ダンス・パフォーマンス 10/28 渡辺豪展×瞑想</li> <li>「あざみ野フォト・アニアル」 1/27 レセプション 2/3 対談#1「金川晋吾×國分功一郎」※再掲 2/24 対談#2「金川晋吾×滝口悠生」※再掲</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展における出品作家と市民を繋ぐ交流会やワークショップの開催に加え、異ジャンルの著名人と作家の対談や作品展示会場を舞台としたダンス・パフォーマンス、瞑想体験の開催を通し、普段コンテンポラリーアートとの馴染みが薄い市民と作家・作品をつなぐ試みを企画し来場者層の拡大に努め、参加者からは「斬新な体験だった」などの声をいただいた。</li> <li>常設展示コーナー設置による若手アーティストや障がいを持つアーティストの紹介などにより、当館から作家の活動を発信した。開放的な空間に自然な形でアピールされた作品の数々を、来館された市民の方々が目にする事で、他目的で訪れた人々にも彼らの活動や作品について知る機会提供が実現した。</li> <li>男女共同参画センター横浜北との共催事業においては、毎月2回のロビーコンサートに加え、レクチャールームを活用した女性芸人による演奏会や地元出身演奏者によるクラシックコンサートを行うことで、複合施設の特性を活かした賑わいの創出に寄与した。</li> <li>定期的に福祉施設の活動を紹介した。障がい者が育てた野菜やカラダにやさしい食品、アートな表現がひかる作品を市民に届け、ロビー空間が大勢のお客様で賑わい、施設のアピールにも貢献した。</li> <li>本年度も博物館実習生の受入を行い、芸術文化に関わる次世代育成を実施した。</li> </ul>	<p><b>【評価できる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画展でのアーティストとの交流に関する事業を目標を上回る回数で実施した。出展作家の対談企画やダンスパフォーマンスの開催、展示会場を舞台にした瞑想体験等、多彩な取組を通じて、様々な客層の取り込みのきっかけを創出したことを評価する。</li> <li>各種ミニギャラリーを着実に開催することで、新進アーティストや障害のあるアーティストの作品、館の収蔵品コレクションの紹介の機会を市民に継続して提供したことを評価する。</li> <li>「ロビーコンサート」及び「ジュニアコーラスワークショップ」を継続して開催したことを評価する。コンサートへの年間来場者数は目標を上回った。若手アーティストや地元演奏家の発表機会であると共に、地域での音楽鑑賞の場ともなった。</li> <li>男女共同参画センター横浜北との密な連携のもと、「女性芸人そろい踏み演奏会」を実施した。複合施設としての特性を活かし、文化芸術と男女共同参画という二つの要素を融合した企画を市民に発信したことを高く評価する。</li> </ul>
	7	ミニギャラリーを設置して、若手アーティストや障がいのある人たちのアート作品を発表する場を提供する	<input type="checkbox"/> 新進アーティスト支援 ショーケースギャラリー  <input type="checkbox"/> 障がいのあるアーティストを紹介 フェローアートギャラリー  <input type="checkbox"/> 地域アウトリーチ(小展示) ミニギャラリー ※1-4 地域連携型アウトリーチ再掲	年4回  年4回  年1回	年4回  年4回  年1回	B  B  B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ショーケースギャラリー」 4/29～7/9 碓井ゆい展 7/15～9/17 町田桂子展 9/23～12/17 木村友貴子展 1/6～3/25 伊佐治雄悟展 ※3/24 伊佐治雄悟展関連ワークショップ 「日用品彫刻を作ろう!」※再掲</li> <li>「フェローアートギャラリー」 4/23～7/23 Vol.26 中村真由美展 8/7～10/15 Vol.27 大久保潤展 10/17～1/14 Vol.28 金崎将司展 1/16～3/25 Vol.29 谷村虎之介展</li> <li>「地域アウトリーチ(フェローアートギャラリー)」 1/12～1/21 ～尾崎文彦展「むふふなカタチ」 岩間市民プラザ3階ギャラリー(保土ヶ谷区)※再掲</li> </ul>	
8		センター横浜北との協働関係をさらに強化し、文化芸術と男女共同参画の理念を融合した事業を展開することで、魅力あるまちづくりにつなげる	横浜のアーティスト、地域の方々によるコンサート ロビーコンサート					
			<input type="checkbox"/> 年間開催回数 (ジュニアコーラス発表会1回を含む)	24回	24回	B		
	<input type="checkbox"/> 年間来場者数		2,040名以上	総計2,428名	A			
	ジュニアコーラスワークショップ <input type="checkbox"/> 1コース実施回数		10回	ワークショップ9回 発表会 1回 計10回	B			
	<input type="checkbox"/> 延べ参加者数		300名以上	総計延べ327名	B			
	アーティストや障がいのある人たちの活動紹介、作品発表・販売の場を支援「あざみ野アートワゴン、マルシェ」							
	<input type="checkbox"/> 年回開催回数		8回以上	アートワゴン5回 マルシェ4回 計9回	B			
男女共同参画等を題材とした創作寄席「落語・講談・浪曲 女性芸人揃い踏み演奏会」								
<input type="checkbox"/> 年間開催回数	1回	1回	B					
<input type="checkbox"/> 入場者数	150名以上	105名	C					
9	地域の人材を活用し、協働を強化する。アートサポーターの活動を拡大し、運営や広報活動への積極的な参加を促す。地元の団体やマイスターを活用した講座やワークショップを実施する	アートサポーターとの協働ワークショップ						
		<input type="checkbox"/> 年間開催回数	2回以上	ワークショップ;計2回 (3日間) サポーター活動;2回	B			
		<input type="checkbox"/> 年間延べ参加者数	300人以上	ワークショップ参加者:424名 サポーター参加数:84名	A			
		全館を挙げてのイベント <input type="checkbox"/> アートフォーラムフェスティバル	参加者3,000人以上	4,261人	A			
		<input type="checkbox"/> あおば美術公募展 共催	入場者4,000人以上	4,094人	B			
		<input type="checkbox"/> 青葉区民芸術祭 共催	入場者4,000人以上	6,129人	A			

平成29年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
3	アーティスト・クリエイターの支援と創造性を活かしたまちづくりをします。	10 大学連携 □実施回数 □参加者数	2回以上 120人	年間5校、7回 111人	A B ・城西国際大学:メディア学部による、企画展紹介映像制作と公開 3本 * Gallery in the Lobby * あざみ野コンテンポラリーvol.8 * あざみ野フォト・アニュアル ・八洲学園大学:「博物館実習」実習生受け入れ ・東京藝術大学:学芸員、修復家、アーティストを対象とした近現代美術作品の最新の保存修復情報の共有 ・横浜美術大学:青葉区主催「フォトジェニック青葉 花と緑のフォトコンテスト」運営連携 ・Super Open Studio NETWORK、東京造形大学連携プログラム「アーティストとオルタナティブ」	(評価は前ページに記載)	(評価は前ページに記載)
4	横浜らしい先進的な文化芸術の市民への発信をします。	11 企画展はコンテンポラリーアートを中核に、より多くの市民に足を運んでいただくよう「横浜らしさ」「親しみやすさ」「暮らしに身近な」をコンセプトに展開 12 都心部フェスティバル事業と連携した企画によって、イベントの周知や盛り上げの相乗効果を発揮	3,000人以上 4.6以上	3,645人 4.51	A B A ・10/7~10/29 あざみ野コンテンポラリー vol.8「渡辺豪 ディスロケーション/dislocation」 ・2013年に第24回五島記念文化賞美術部門新人賞を受賞し、約1年間フィンランドに滞在した渡辺豪の個展を開催 [関連イベント] 10/8~10/21 学芸員によるギャラリートーク ※以下、再掲事項 10/7 レセプション 10/7 葉名樺 ダンス・パフォーマンス 10/28 渡辺豪展×瞑想 「ヨコハマトリエンナーレ2017」情報発信 ・会期中、館内モニターでのイベント紹介ビデオ上映 ・広報誌「アートあざみ野」での情報掲載 ・関連事業 計4事業 ※全て再掲 8/6 世界を旅する夫婦アーティストusaginginen 映像と音楽によるライブショー 8/27 あざみ野カレッジ「制作発表 ヨコトリ2017参加アーティスト川久保ジョイの場合」 9/9 あざみ野サロン「篠田太郎上映会『パラダイムシフト』」 10/7~10/29 あざみ野コンテンポラリー vol.8「渡辺豪 ディスロケーション/dislocation」	【成果】 ・「あざみ野コンテンポラリー」では、初の試みとして、3DCGアニメーション作品を展示した。展示室のフロアを十分に生かした構成により、作品の魅力を伝えることができた。また、展示会場を舞台としたダンス公演や瞑想体験など斬新な試みにも挑戦し、普段コンテンポラリーアートに馴染みが薄い層への来場誘致にも取り組み、企画展全体としての満足度は4.51(5点満点)となった。アンケートにも「展示空間と作品がとてもフィットしていて、クオリティが高い展示だった」との声が寄せられた。五島財団との連携により、例年以上に丁寧な会場設営と充実したパンフレット制作に予算を投じることが可能になった。その結果として、来場者に対しより質の高い展覧会を提供することが可能となった。 ・「ヨコハマトリエンナーレ2017」開催年に際し、当館ならではの特色ある関連事業を4事業開催し、イベントの賑わい創出に貢献した。日常的な広報協力にも積極的に取り組み、横浜北部での情報発信拠点としての役割を担った。 【課題】 ・「あざみ野コンテンポラリー」で取り上げた、3DCGアニメーションについて、来場者に対し事前に「どういうものか」を伝える事に苦慮した。コンテンポラリーアートについては、今後も益々、表現手段に多様化が進むことが予想され、開催内容の分かりやすい説明について一層の工夫が必要になる。	【評価できる点】 ・「あざみ野コンテンポラリー」は、来場者数が目標を600人以上上回ったことを評価する。アニメーション作品の展示に際しては、スクリーンのみならず展示室の床等にも映像を投影し、展示室全体を活用した。また、ダンスパフォーマンスを実施したほか、男女共同参画センター横浜北と連携し、展示作品の中で瞑想を行うという新たな切り口での連携企画も実施した。複合施設であり、それぞれの客層が異なるため、これらの取組が新たな層への働きかけになったことを評価する。 ・本市の事業である「ヨコハマトリエンナーレ2017」に協力し、関連事業を目標の2倍実施したことを評価する。「あざみ野こどもぎやらい2017」、「あざみ野カレッジ」、「あざみ野サロン」、「あざみ野コンテンポラリー」といった各種自主事業との連携を図った。 【改善が必要と考えられる点】 ・「あざみ野コンテンポラリー」の平均満足度が目標を下回った。アンケート結果の分析等を行い、作品や企画の意図を、分かりやすく楽しんでもらえるような工夫を期待する。
5	カメラ・写真コレクションの展示・調査研究・教育普及をします。	13 データベース整備 □カメラ以外 整備割合 ■「近現代美術作品の保存修復に関する研究」への参加 ■状態確認、保存修復 ■収蔵環境の調査 維持管理目標に再掲 ■収蔵品の活用 貸出、熟覧への対応	95% 参加 実施 実施 随時	90% (カメラについては平成28年度に完了) 参加 実施 実施	B - - - - ・2/10 東京都写真美術館レクチャーへ当館学芸員参加 ・修復:1件 ・毎月1回以上収蔵庫内環境を確認。 ・貸出、熟覧 ○熟覧:1件 ○貸出:2件 ・画像貸出:1件 ・横浜市民ギャラリーコレクション展2018「写真と素描でたどる横浜」への所蔵品貸出18点 ・情報誌「アートあざみ野」コラム掲載:4回 ・ホームページでのコレクション公開 3月31日時点の公開点数:1220点 ・文化庁アーカイブ中核拠点形成事業「プロトタイプ部門」事業担当機関:武蔵野美術大学)への収蔵品データ提供協力(38点)	【成果】 ・保管状態を点検・改善しながらの作業を継続、不正確な目録を調査、補完して修正する取組を行った。これらの地道な活動により集積された資料データに対し、文化庁アーカイブ中核拠点形成事業「プロトタイプ部門」からのデータ提供依頼を受け、38点のデータを提供した。 ・「あざみ野フォト・アニュアル」の企画展では、金川晋吾の写真を代表する「father」と2016年に当館のコンテンポラリー展にて初発表された「Kanagawa Shizue」という、2つのシリーズを中心に構成した。関連事業として、各種対談企画や視覚障害者と健常者が作品鑑賞を通じて語り合う会や、担当学芸員による作品解説ツアーなどを開催し、作品をより深く理解する機会を提供した。コレクション展では、当館収蔵の貴重なカメラと写真・関連機材等を、歴史的考察を交え紹介し、「横浜らしい、写真に寄せた展示を拝見できて満足」等の声をいただいた。また、一部展示写真を横浜市民ギャラリーから借り受けることで、市内施設連携も実現した。 (次ページに続く)	【評価できる点】 ・横浜市民所蔵カメラ・写真コレクションの保存及び管理、整理が着実に遂行されたことを評価する。また、アーカイブ中核拠点形成モデル事業の一環である「プロダクトデザインデータベース」へコレクションの情報提供を行った。貴重なコレクションに係る情報の普及に寄与したことを評価する。 ・横浜市民ギャラリーで開催した「コレクション展2018」にコレクションを貸出した。地理的に離れた場所の類似施設で展示を行ったことで、他地域の市民が横浜市民ギャラリーあざみ野のコレクションを知る機会につながった。 ・「あざみ野フォト・アニュアル」の来場者数は、目標3,000人以上に対して1,000人以上上回った。平均満足度も目標を上回っており評価する。また、横浜市民ギャラリーの収蔵作品も展示しており、他館との連携・協力体制を築いたことを評価する。 (次ページに続く)

平成29年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
5 カメラ・写真コレクションの展示・保存・調査研究・教育普及をします。	コレクションを活用して広く鑑賞に提供し、カメラ・写真ファンの要望に応える。市民にカメラ・写真文化に親しむ場を提供し、日本における写真発祥の地の一つといわれる横浜市の映像文化づくりに貢献する	企画展「あざみ野フォト・アニュアル」				(前ページの続き)	(前ページの続き)
		□来場者数	3,000人以上	4,310人	A		
	□平均満足度	4.6以上	4.64	B	<p>1/27～2/25「あざみ野フォト・アニュアル」</p> <p>企画展「金川晋吾『長い間』」</p> <p>横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展『写真の中の身体』</p> <p>[展示]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展「金川晋吾『長い間』」</li> <li>・平成29年度コレクション展「写真の中の身体」</li> </ul> <p>[関連イベント]</p> <p>2/17 アートなピクニックー視覚に障がいのある人となない人が共に楽しむ鑑賞会</p> <p>2/18 学芸員によるギャラリートーク</p> <p>※以下、再掲</p> <p>「あざみ野フォト・アニュアル」</p> <p>1/27 レセプション</p> <p>2/3 対談#1 「金川晋吾×國分功一郎」</p> <p>2/24 対談#2 「金川晋吾×滝口悠生」</p>		
	□ギャラリー イン ザ ロビー	年4回	年4回	B	<p>・「Gallery in the Lobby」横浜市所蔵カメラ・写真コレクション</p> <p>4/29～5/28 カメラのしくみ</p> <p>9/30～10/22 写真と色彩</p> <p>10/26～11/19 カメラと光量</p> <p>3/3～3/21 カメラを持った人形たち</p>		
コレクションを活用して広く鑑賞に提供し、カメラ・写真ファンの要望に応える。市民にカメラ・写真文化に親しむ場を提供し、日本における写真発祥の地の一つといわれる横浜市の映像文化づくりに貢献する	カメラや写真制作に関わる理解促進ワークショップや講座	年4回	年6回	A	<p>・[ワークショップ] ※再掲</p> <p>4/13～6/8 やさしく、たのしいデジタル一眼カメラ(計5回)</p> <p>6/10、6/24、7/8 手づくり写真集に挑戦!</p> <p>6/16、6/23、6/30、7/7 山内小学校5年生「自分の思いと写真」</p> <p>・[出張展示及びトーク]</p> <p>横浜市民ギャラリーコレクション展2018</p> <p>「写真と素描でたどる横浜」(3/2～3/18)への所蔵品貸出及び担当学芸員ギャラリートーク(3/11)</p> <p>・[講座、イベント] ※再掲</p> <p>「あざみ野フォト・アニュアル」</p> <p>2/3 対談#1 「金川晋吾×國分功一郎」</p> <p>2/24 対談#2 「金川晋吾×滝口悠生」</p>	<p>【課題】</p> <p>・今回の「あざみ野フォトアニュアル」への来館者数は、前回展に比べ約2,000名減という結果に終わった。主要駅への有料ポスター掲出や近隣住宅に向けた年賀配布等のきめ細かい周知を心掛けたが、十分な成果を得る事が出来なかった。各企画展を来館者数のみで評価することは出来ないが、事前周知の方法やアプローチ先の設定に課題があり、引き続き効果的な広報活動の検討を行う。特にコレクション展は、当館に貴重な資料が所蔵されている事を周知する機会でもあるため、コレクションの存在自体を周知することも検討する。</p> <p>・当館所蔵コレクションについては、長期的な展望に基づいた活用法の確立が必須である。</p>	

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 市民の文化芸術活動の支援をします。	【貸館】 利用の際のアドバイスも充実させ、利用者の制作活動や発表の場で最大限の成果が得られるように支援	【利用率】	95%	99%	B	<p>・平成29年10月より展示室の貸出期間区分を変更。</p>	<p>【成果】</p> <p>・展示室やアトリエの貸出については、利用者目線に立ちニーズ実現や課題解決の支援を心掛けた。芸術文化専門団体が管理運営にあっている施設ならではの、トータルコーディネート(企画、展示、撤収)を実施し、好評を得た(利用者平均満足度=4.68)。</p>
		□展示室1・2					
		□アトリエ コマ単位	63%	53%	C		
		□アトリエ 日にち単位	93%	82%	C		
	【各種支援】 利用の際のアドバイスも充実させ、利用者の制作活動や発表の場で最大限の成果が得られるように支援	□アトリエ 夜間コマ	36%	28%	C	<p>・10月から、開館以来踏襲されてきた貸出期間区分を、より利用者ニーズに則した期間に変更し利便性向上に寄与した。</p> <p>・展示室について、会期中の会場写真もホームページに掲載し貸館利用への誘客促進を図った。</p> <p>・今年度「アートあざみ野」(4月～7月号)のトップページにて貸館利用の特集記事を掲載し、市民利用施設としてのアピール強化に努めた。</p>	
		広報支援(施設利用者)					
		□「アートあざみ野」で展覧会情報を紹介	4回	4回	B		
		■施設HPで展覧会写真を紹介	実施	実施	-		
	【施設提供に関する利用者サービス】 ホームページでの施設情報提供、利用期間中の物品預かり、制作活動のための空き時間のアトリエ提供	■チラシやフライヤーを配架	実施	実施	-	<p>・展示室、アトリエの事前打合せでの各種アドバイスを実施</p> <p>・可能な限りお客様の都合に合わせての利用対応</p> <p>・ホームページ上に分かりやすい文章表記を心掛けた施設情報を記載。</p> <p>・平成29年10月より展示室の貸出期間区分を変更。</p> <p>・割引制度は継続実施。</p> <p>・随時、物品預かりを実施。</p> <p>【課題】</p> <p>・展示室の利用率は、昨年度に引き続き、ほぼ100%に近い状態で推移しているが、アトリエ利用率は、目標値に届かない形で横ばい状態となった。アトリエ利用に対する各種「割引制度」を導入しているが、利用促進に特段の効果は得られていない。</p> <p>・アトリエにおける夜間区分の利用率が低く、今後は美術系に限らないパフォーマンスアーツのジャンルにおける「スタジオ」等での利用促進を検討していく必要があると考える。</p>	
		利用者、市民へのアドバイス					
		■利用者打合せ	実施	実施	-		
		■現場視察対応	実施	実施	-		
■空き情報の公開 施設HPで施設情報提供		実施	実施	-			
■広報支援 市内外ギャラリー情報の提供(配架)		実施	実施	-			
利用者サービス							
■展示室利用単位(開始・終了曜日)改善		実施	実施	-			
■利用期間中の物品預かり	実施	実施	-				
割引料金の導入							
■アトリエ夜間割引	実施	実施	-				
■学生割引	実施	実施	-				

平成29年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
2 利用促進、利用者サービスの向上及びアイデアノウハウの提案をします。	アンケートや意見聴取等による利用者ニーズの把握	□利用者アンケート 展示室利用者の満足度	4.6以上	年間平均4.68	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>28年度 年間平均4.63</li> <li>施設利用案内(展示室、アトリエ)チラシ作成</li> <li>アトリエ・プロモーション動画制作及び公開</li> <li>多目的トイレへのウォッシュレット導入</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規に貸館利用に特化した施設利用案内チラシやアトリエのプロモーション動画の導入を実現した。</li> <li>利用者からの意見や要望について、いただいた時点で迅速に内部共有し、対応策を協議することで、課題解決を図った。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書面によるアンケート形式以外の「生の声」を聞く機会を持ち、より実情の把握にアプローチする事が必要と考える。</li> </ul>	<p><b>【評価できる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>展示室の貸室利用者の平均満足度が目標を上回ったことを評価する。これは、安定した施設貸出のサポートが継続して遂行された成果である。</li> </ul> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>
	要望や苦情への対応、運営改善	■クレームや意見を情報共有し、運営改善につなげる	実施	実施	-			
3 組織的な施設運営をします。	適切な人材配置	■人材配置 館長:1人、副館長:1人、職員:8人、臨時職員:3~5人	実施	実施	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材配置 館長 1人、副館長 1人、美術専門スタッフ 4人、施設管理運営 4人、常勤アルバイト 2人(短時間勤務)</li> </ul>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用状況や業務繁忙に応じ、柔軟かつ効率的なシフトを組み、職員のワークライフバランスに合わせた勤務と効率的な運営の両立を実現した。</li> <li>館長・副館長不在時の代行者を明確にすることはもとより、緊急連絡先の職員間共有により、責任体制の明確化を実施した。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、全職員が「多能的」に施設運営を担えるよう、OJTや研修を実施していく事が必須である。</li> </ul>	<p><b>【評価できる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な人材の配置、適切かつ効率的な勤務体制の実行により、安定した施設運営が遂行されたことを評価する。</li> </ul> <p><b>【改善が必要と考えられる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし。</li> </ul>
		■勤務体制 繁忙に応じて柔軟なシフトを組み、良質な利用者サービスを提供する 早番:2名、遅番:2名(基本ローテーション)	実施	実施	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤務体制について(基本) 早番(8:45~17:30)2名 遅番(12:30~21:15)2名 ※全職員によるローテーション制</li> </ul>		
		■切れ目のない責任体制の維持 館長・副館長不在時の代行者を明確にし、責任体制を維持する	実施	実施	-			
4 本市の重要施策を踏まえ取り組みます。	7 全般的な取組	■横浜市が発信する情報や研修参加等を通して、重要施策を理解し、積極的に協力	実施	実施	-	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の保管 施錠管理、パスワードロック</li> <li>マイナンバー対応マニュアルの新規作成、研修</li> <li>「アートフォーラムあざみ野(複合施設)」全体でのゴミ排出量:3,783kg(前年3,474kg)</li> <li>電気年間使用量 対前年度比:102%</li> <li>ガス年間使用量 対前年度比:97.9%</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マイナンバー収集にあたっては、実務に沿った研修、作業における事務所内における目隠しの徹底などに努め、個人情報漏えい防止対策を講じた。</li> </ul>	<p><b>【評価できる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市の重要施策を念頭に、毎月の職員会議での情報共有を行った。常に、ホスピタリティの向上と公平・公正を心掛け、利用者サービス向上に努めた。</li> </ul>	
		■コンプライアンス情報の共有、意識の向上	実施	実施	-			
	8 個人情報保護・情報公開	■個人情報の、規程およびマニュアルに基づいた適切な取扱	実施	実施	-			
	9 人権尊重	■すべての人に開かれた施設として、公平・公正な施設運営	実施	実施	-			
	10 環境への配慮	■ゴミの排出量を抑える 施設運営上、発生するもの;適切に分別利用者;原則持ち帰りの徹底。必要なら有料で処分	実施	実施	-			
■エネルギー使用量の抑制 電気・ガス使用量を前年度並みに抑制		実施	実施	-				
11 市内中小企業への優先発注	■物品購入、委託 アーティスト指定、市外業者のみの業務を除き、市内業者に発注	実施	実施	-		<p><b>【改善が必要と考えられる点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き適切な施設管理を行い、ゴミの排出量やエネルギー使用量の削減に努めること。</li> </ul>		

平成29年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 施設及び設備の維持保全及び管理をします。	1 共用部分の維持管理業務	■電気・空調・衛生設備・昇降機点検、建築基準法12条に基づく点検の法定通りの実施	実施	実施	・AED設置 2台 ※1台はセンター横浜北所有 ・操作研修 年1回(外部研修に参加) ・維持管理の検討会 年3回 ・毎週1回の管理合同ミーティングを実施	【成果】 ・建物及び設備管理業務を専門業者に委託し、建築基準法や横浜市が策定する手引きやマニュアル、業務の基準に沿って、専門的な知識に基づく施設管理を実施した。	【評価できる点】 ・施設及び設備の維持保全と管理について、専門業者や男女共同参画センター横浜北と連携し、着実に遂行したことを評価する。  ・展示壁や陶芸窯の補修等の専有部分の修繕について、適切に実行したことを評価する。	
		AEDについて □操作研修	1台設置 操作研修 1回	1台設置/ 研修実施1回				B
□センター横浜北、管理委託会社との管理検討会	年1回	年3回 (そのほかミーティングを毎週火曜に実施)	A					
■横浜市が策定する、手引き、マニュアルに基づく点検・報告の実施	随時	実施	-					
	2 専有部分の維持管理業務	□展示室壁面の塗り直し 実施回数	年1回	年1回	・展示室壁面の補修・塗り直し 1回:1/4~1/6 ・電気式陶芸窯の補修 1回:8/3	【課題】 ・「アートフォーラムあざみ野」施設全体としての「安全・安心」を維持するため、今後もセンター横浜北、管理委託業者との密なる連携を継続できるよう、日ごろからのコミュニケーションを大切にしていこう。	【改善が必要と考えられる点】 ・特になし。	
2 小破修繕へ取り組みます。	3	■不具合を早期発見し、修繕必要箇所へ迅速に対応	実施	実施	・建物及び設備管理業務を専門業者に委託し、毎週1回の管理合同ミーティングでの現況確認を経常化	【成果】 ・不具合は、小さなうちに発見し、自ら修繕できるものは速やかに対応することで、事故発生を未然に防いだ。	【評価できる点】 ・毎週1回の管理合同ミーティングを実施し、複合施設全体として適切な維持保全及び管理を実施したことを評価する。	
		■適切で効果的な維持保全及び管理の実施	実施	実施				-
3 カメラ・写真コレクションの適切な収蔵、保管をします。	4	□展示室内環境の維持	温度 20℃±2℃ 湿度 50%±2%	実施 温度 湿度 20℃±2℃ 50%±2%	・展示室の温湿度管理 計画通り実施。 ・日本カメラ博物館等と日常的に連携。	【成果】 ・展示室内の空調管理、収蔵庫の空調やpH管理を行い、作品の収蔵に適した空気環境を整えた。  ・2月には、不調だった収蔵庫除湿機の交換工事を実施し、より質の高い環境を整備した。	【評価できる点】 ・展示室及び収蔵庫の適切な管理を継続したことを評価する。また、収蔵庫の除湿機更新に際しては、市の発注工事に適宜協力し、適切な収蔵環境の維持に貢献したことを評価する。	
		□pH値を定期的に測定して、結果に応じたケミカルフィルターを設置	年2回	年2回				B
		□文化財喰害虫生息調査 実施回数	年8回	年8回				B
		□庫内点検、定期的な清掃 実施回数	月1回	月1回				B
		■収蔵・保管、活用について、専門機関と協力・連携	実施	実施				-
4 事故防止策・緊急時(防犯)の対応、防災に対する取り組みます。	5 事故防止策	■安全管理に関するマニュアルの必要に応じた更新、改訂	随時	実施	・緊急連絡網や消防計画、機械警備マニュアルの見直しを随時実施 ・合同防災訓練 年2回:9/19、3/13(内1回は、シナリオなき防災訓練 3/13) ・帰宅困難者一時滞在施設対応訓練(備蓄食料等の確認) 年1回:9/19	【成果】 ・アートフォーラムあざみ野全体の取組みとして、男女共同参画センター横浜北や管理委託業者との日常的なコミュニケーションを図り、危機管理に対する良好な協力体制が構築できた。	【評価できる点】 ・各種マニュアルの見直しを行ったほか、複合施設全体での合同防災訓練等を実施し、緊急時に備えた適切な準備に取り組んだことを評価する。	
	6 緊急時(防犯)対応	■アートフォーラムあざみ野全職員が一致して危機対応する	実施	実施				-
	7 防災に対する取組	□センター横浜北との合同防災訓練 実施回数	年2回	年2回				B
□帰宅困難者一時滞在施設対応訓練 実施回数		年1回	年1回	B				
5 その他施設管理に関する事項	8	□ホームページの内容の充実、最新情報の発信	週1回以上更新、年間アクセス数50万件以上	週3回程度更新、3,121,029件(全ページ) 680,532件(トップページ)	・ホームページへのアクセシビリティ向上を目指し、表記やデザインの変更、及び、工夫を定期的に推進 ・ホームページ更新 週3回程度 ・「アートあざみ野」年4回発行:vol.43~46 ・有料広報 こどもぎやらい2017及び市民のためのプログラム(講座募集):地元タウン誌有料広報。 秋と新春の企画展:近隣主要駅への駅貼りポスターを実施 年賀タウンメール導入(近隣住宅5,000件) ・無料媒体:毎月1回以上(広報、フリーペーパー、ラジオなど) ・「女流芸人」チラスの町内会掲示板掲出(青葉区協力) ・合同広報会議は共同主催の「アートフォーラムフェスティバル2017」開催に際し、7月、8月、9月、10月の4回開催	【成果】 ・平均して週1回以上となる高頻度でのホームページ更新を継続し、最新の情報発信に努めた。ホームページは、講座やワークショップの募集ツールとしては、中心的な媒体となった。  ・新規の試みとして、「有料駅貼りポスター」「町内会掲示板」「年賀タウンメール」等を導入し、地元地域へのアプローチ強化に注力した。	【評価できる点】 ・ホームページの更新回数、メールマガジン配信数、情報誌の発行回数、無料媒体への情報掲載回数が目標を上回っており、広報活動に積極的に取り組んだことを評価する。また、ホームページの年間アクセス件数が、目標50万件以上に対してトップページは68万件、ホームページ全体では310万件を上回ったことを評価する。  ・駅貼りポスターや年賀タウンメールの実施等、地元地域への情報発信の強化を目的とし、新しい広報手法を試行したことを評価する。	
		□メールマガジン 配信数	月1回(定期配信)	年26回(定期配信の月1回に加えて配信)				B
		様々な広報媒体の活用						
		□情報誌「アートあざみ野」の発行 発行回数	年3回以上	年4回				A
		□企画展の広報 有料広告の効果的な活用	年3回	年3回				B
		□無料媒体への掲載 掲載回数	月1回以上	年間91件(平均して月1回以上)				A
□センター横浜北との協力 合同広報会議 開催回数	月1回	月1回	B					

平成29年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
IV収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 収支構造及び収支バランス	1 一部自主事業の収支ゼロ化	□収支ゼロ若しくは黒字で行う自主事業	44万円以上	1,860,500円	チェック A	・自主事業での指定管理料を投入しない事業としては、「市民のためのプログラム」を想定して実施。	【成果】 ・「市民のためのプログラム」(年間11コース、参加者数:延べ874人)では、全体収支における受益者負担率が102%の黒字決算を達成した。  【課題】 ・黒字を達成する可能性がある事業として、「あざみ野サロン」によるコンサート公演等が考えられる。今後は、当該事業開催に際し、収益性を重視した販売促進等に努める。	【評価できる点】 ・収支バランスの取れた事業の実施を高く評価する。28年度実績と比較しても上回っており、安定した事業運営が行われた。  【改善が必要と考えられる点】 ・「市民のためのプログラム」は受益者負担率が高い事業として、今後も安定した運営が行われることを期待する。また、他の事業においても、受益者負担率の向上が可能であり、事業の本質からしても適しているものについては、積極的に取り組むことを期待する。
		2 利用料金の安定的な確保	□利用料金収入(施設、駐車場)	1,295万円以上	1,1640,910円	C	・利用料金収入:8,116,960円 ・駐車場利用収入:3,523,950円 ・あざみ野フォトアニュアル企画展「金川晋吾『長い間』」に対し、野村財団より40万円助成金を獲得 ・アートあざみ野広告掲載料18万円	【成果】 ・「あざみ野コンテンポラリー」に対し、五島財団より、主に新作制作費用、新規プリント、額装費への助成(250万円相当)を受けての開催を実現した。  ・印刷物への企業名掲載、レセプション会場内でのパナー掲出や挨拶時のご紹介などのメリット提示により、企画展レセプション用飲料提供を獲得した。  【課題】 ・施設利用料金について、アトリエ利用の拡大に効果が見られず微増に留まった。昨年度比では28万円増となったものの目標額には未到達となり、今後はアトリエの利用増に向けた個別営業活動等の取組を検討する。  ・助成金、協賛金獲得について戦略的アプローチが足りなかった。今後は、助成金申請先や企業の求める事業成果や効果を想定し、それに即したエントリーシート作成の精度を高めていく。
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造	3 助成金・協賛金、現物協賛の獲得	□助成金 申請件数	2件以上	3件	A			
		□外部資金の獲得額	100万円以上	58万円	C			
3 経費削減等効率的運営の努力	4 経費削減・効率的運営の努力	■センター横浜北と協力し、施設管理に係る委託費を抑制	前年度並みに抑制	実施	—	・平成29年度総計31,103千円 (平成28年度総計31,523千円)	【成果】 ・建物総合管理、設備保守、警備、受付、清掃業務委託については、前年度並み(予算内)に抑えることができた。  【課題】 ・開館12年を超え、29年度は収蔵庫除湿機1台を更新した。他にも経年劣化による様々な機器や設備の更新時期が迫っているため、今後は計画的な更新計画を立てる等し、効率的な修繕の実施を検討したい。	【評価できる点】 ・施設管理を着実に行うと共に、委託費は前年度と比較しても大きく増加することなく予算内で実行した。  【改善が必要と考えられる点】 ・今後も建物や設備の耐用年数を把握し、計画的な修繕計画の更新と共有を実施することで、施設の長寿命化につなげることを望む。
評価項目	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
その他						【成果】	【評価できる点】	
						【課題】	【改善が必要と考えられる点】	

平成29年度 横浜市民ギャラリーあざみ野 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画	実施状況	評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	説明	自己評価	行政評価
				<p>平成29年度は、第3期指定管理期間の中間期に当たる3年目として、試行錯誤を繰り返しつつも発展してきた基幹事業の継承に加え、時流のニーズに即した新規事業を立ち上げることで、施設全体としての活動に厚みを付けることに注力した。</p> <p>美術(ファンアート=純粋芸術)というジャンルを超えた、新たな芸術の動向を紹介する事で「あざみ野ならではの」創造性溢れる表現活動を幅広く育み、魅力ある横浜市北部地域のまちづくりに寄与したと考える。</p> <p>企画展は、年間3事業を27年度、28年度と同時期に実施。各展覧会ごとにターゲット戦略をたて、駅貼りポスターや各戸配布郵便等も導入することで、地元地域を中心に来館者数の拡大を目指した。</p> <p>「市民のためのプログラム」は、市民の日常生活に楽しみや彩を添えるお手伝いをした。いずれも定員を超える応募があり賑わった。「子どものためのプログラム」は、当館ならではの焼き物・木工やガラス加工等も含め多くの子供たちが参加した。</p> <p>「あざみ野カレッジ」では、かねてより当館に寄せられていたニーズに応える形で、アーティストや芸術分野に関わる人を対象とした連続講座を新規開設し好評を得た。</p> <p>「ヨコハマトリエンナーレ2017」開催年に際し、関連事業の実施や広報協力に取り組み、横浜北部での情報発信拠点としての役割を担った。</p> <p>開放的なロビーを活かし若手アーティストや障がいのあるアーティスト、カメラ・写真コレクションを展示し来館者に気軽に御覧いただいた。</p> <p>施設管理面では、開館以来使用されてエントランスの館内表示をより来場者目線で分かりやすい表記にリニューアルするなど、来館者の利便性を高めた。周知面では、施設利用案内チラシの新規作成、アトリエ利用プロモーション動画の作成及び公開を行った。</p> <p>今後も引き続き、各所との連携や情報交換を密に図り「安全・安心」にお過ごしいただける施設の実現に向けた取組を強化する。</p>	<p>29年度は従来の事業を安定的に実施し、市民に広く文化芸術の体験の場を提供したことに加え、新規事業等にも取り組み、利用者ニーズに応えた事業展開を図った。</p> <p>3つの自主企画展では、入場者数が目標を上回ったことを高く評価する。今後も各企画展の趣旨に沿った魅力あふれる展示を期待すると共に、目標を下回った達成指標については振り返りと分析を実施することで、改善につなげることを期待する。</p> <p>アトリエやレクチャールーム等で開催した子ども向け・市民向けの各種事業は、固定化した講座を着実に実施する一方で、新規でアーティスト向けの講座や男女共同参画の要素を取り入れた事業を実施する等、より磨きをかけた事業展開が行われた。</p> <p>本市の文化事業「ヨコハマトリエンナーレ2017」と積極的な連携を図った。今後も本市文化事業との連携の継続を望む。</p> <p>横浜市所蔵カメラ・写真コレクションの管理とデータベース化についても着実に取り組み、コレクションのデータは外部のアーカイブにも提供し、貴重な収蔵品の公開に寄与したことを評価する。コレクション管理について、今後も着実に業務の積み重ねを進めていきたい。</p> <p>施設運営について、安定した運営を継続したことを評価する。また、男女共同参画センター横浜北と連携を図り、複合施設としても適切な維持管理・運営が行われた。今後も適切な連携を図ることを望む。</p> <p>今後も施設の特性を活かした魅力ある事業と、安定した施設運営を継続すると共に、28年度の指定管理者選定評価委員会での指摘をふまえた改善及び向上に向け、引き続き取り組むことを望む。また、利用者数等の提案内容の実現を図るため、アトリエの利用傾向を分析して利用促進を図る等、計画的な業務の遂行を継続してもらいたい。</p>